

分離プロセス部会 ニュースレター

No. 2
2006.7

分離プロセス部会のアクションプランと 部会の発展的継続に向けて

分離プロセス部会長 吉田弘之



分離プロセス部会が発足して早いもので3年、初代部会長の中尾真一先生の後を受け、部会長をおおせつかつてから1年を経過しました。

分離プロセス部会は、中尾先生の卓見と強力な指導力により、私が引き継がせていただいた時には、その基礎はほとんど出来上がっていました。ただ、引き継いだ直後から、化学工学会本部より部会のロードマップを早急に作製し提出するよう再三の要請があり、私の仕事はこのロードマップの理解から始まりました。以前から聞いていたことですが、部会制が発足した折、その規定の中に、部会は4年目に本部から中間評価を受ける事、8年で白紙に戻す、というものがありました。ロードマップの提出依頼は4年目の中間評価に向けての評価項目を明らかにすることが目的でした。これらについては、各部会とも必ずしも同意しているものではないことから、ここ半年の間に、集中的に部会 CT 会議、部会 CT・部会長合同会議で議論され、最終的に以下のように修正されました。1) ロードマップに関しては、分離プロセス部会のように基礎的な研究をする研究者の多い部会ではアクションプランでもよい。2) 評価は本部がするのではなく部会の自己評価とする。ただし、評価項目の中には、部会制の発足時の大きな目標の一つである会員増強についての方策は明記する。3) 8年で白紙に戻すのではなく部会が望めば継続は可能、会計も継続する。その際、8年目に入る前後に手を上げる必要があります。

以上3点が主な修正点です。これらに基づき後述のアクションプランを策定、本部に提案し、また、3月28日に開催しました分離プロセス部会総会においてお認めいただきました。特に本部会の目玉としていますのが、今回新設しました産学連携・会員サービス委員会です。大学側の会員からは卒論・修論・学位論文のテーマ名、産学連携を行う意思の有無などの公表、企業側の会員からは、現在の活動のキーワードあるいはそれに付け加えることのできる説明などを公表、委員会を通じて技術相談、技術指導、産学共同研究のマッチング、大型プロジェクトの提案などに発展させていこうとするものです。さらに企画委員会、教育委員会、広報委員会による充実した活動を展開し、基礎と応用に加え、実用化も視野に入れた、楽しく活発で発展的かつ継続性のある部会にできればと考えています。

部会の会員数も、2005年4月における326人から2006年3月には378人と大幅に増加しています。これからも、会員の皆様からどしどしご意見をいただき、今後の運営に反映させていきたいと考えています。ご協力よろしくお願いたします。

Information

分離プロセス部会アクションプランを制定しました

分離プロセス部会は、化学工学会の分離工学に係わる専門分野の代表機関として、分離プロセス技術の研究、開発および分離単位操作間の連携を図り、産官学間の交流や海外への分離プロセス技術の発信を通じて、学術および技術の向上を促進することを目的としています。

この目的を達成するため、本部会では下記のアクションプランを定めました。研究対象をもとに組織される分科会、運営を円滑に進めるための各種委員会ならびにワーキンググループを設置し、これら部会内部組織の密接な連携、また他の部会・支部、他の学協会との積極的な連携のもと、様々な活動に取り組んでいます。

特に、産学連携の強化、学のシーズ・産のニーズのマッチング、共同研究や大型プロジェクトへの展開を目指した取り組みは、今後の重点課題として進めています。

① 学会活動・部会活動の活性化

- 1.1 講習会・講演会・見学会等の開催
- 1.2 分科会間の連携強化
- 1.3 他部会・支部との連携強化
- 1.4 他学協会との連携強化

② 産学連携の強化、会員サービスの向上

- 2.1 研究者情報の公開、学のシーズ・産のニーズの公開
- 2.2 技術指導・相談の推進、産学協同研究のマッチング
- 2.3 部会主導の産学連携プロジェクトの提案

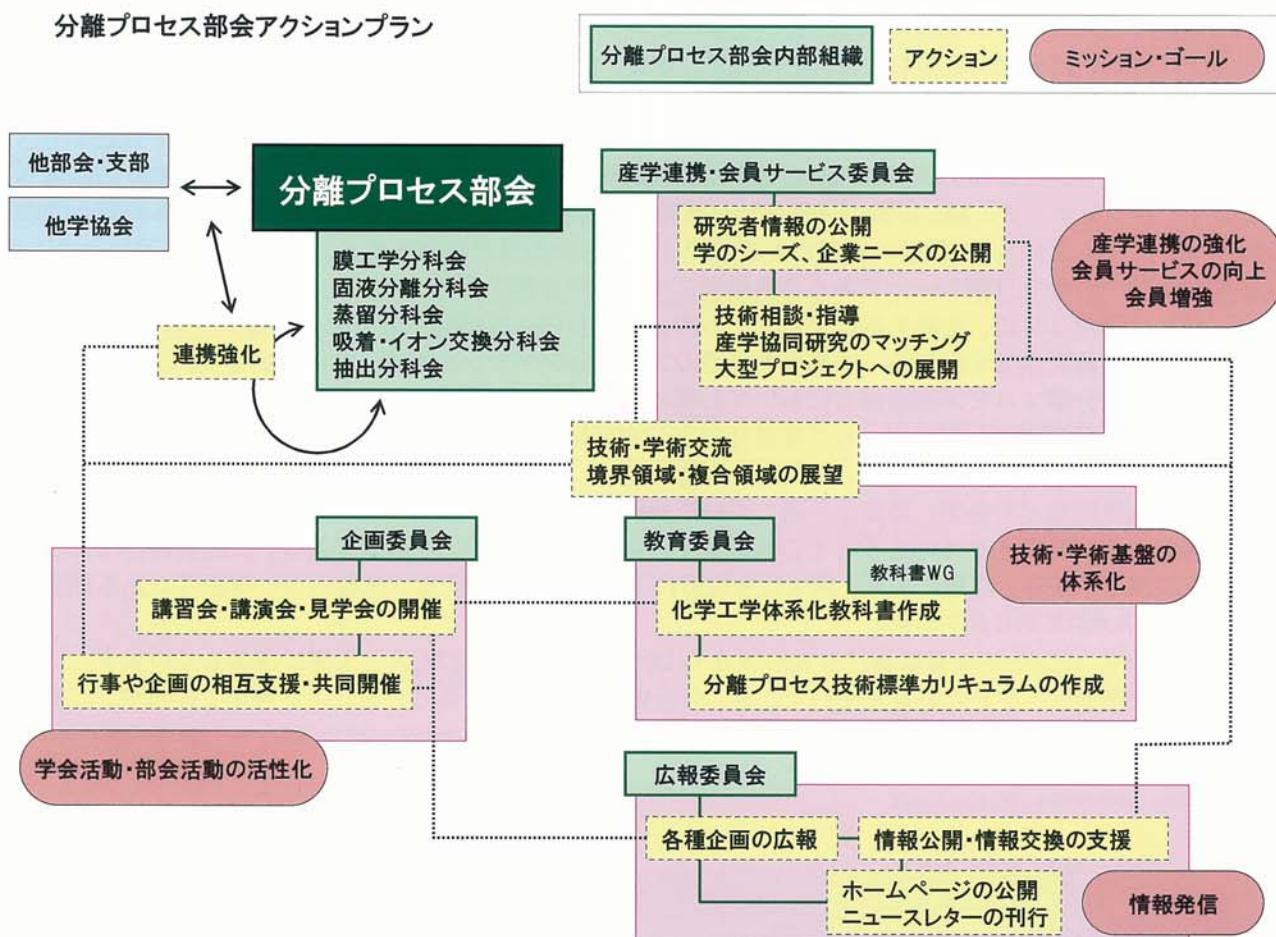
③ 技術・学術基盤の体系化

- 3.1 分離プロセス技術標準カリキュラムの作成
- 3.2 化学工学体系化教科書の作成

④ 各種情報の発信

- 4.1 各種企画の広報
- 4.2 産学連携情報公開の支援、会員サービスの支援
- 4.3 技術・学術情報の発信
- 4.4 ニュースレター、ホームページの充実

分離プロセス部会アクションプラン



Reports

活動報告

分離プロセス部会では、これまでに以下のような活動を行ってまいりました。今後も価値ある企画を提案してゆきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

○ 分離プロセス基礎講座

分離プロセスの基礎理論を平易に解説し、技術者のリフレッシュ教育、新入社員教育等にもお役立ていただけることを目的に企画しています。

- | | |
|--------------|------------------------|
| 第1回 「固液分離工学」 | 2003年5月20日 (名古屋市工業研究所) |
| 第2回 「吸着・抽出」 | 2005年6月30日-7月1日 (明治大学) |
| 第3回 「膜分離」 | 2006年1月27日 (明治大学) |

○ 分離プロセス最新技術講座

それぞれの技術分野における先端技術や最新のトピックスを紹介・解説いたします。

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 第1回 ①「外部刺激に应答する膜」 ②「機能性分子素子の応用」 | 2003年10月26-27日 (早稲田大学) |
|---------------------------------|------------------------|

○ 分離プロセス部会講演見学会

工業生産あるいは研究の現場における設備の見学とそれに関連する技術の最新的话题を解説いただく講演会を組み合わせた企画です。

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 第1回 「吸着」 | 2003年7月24日 (長崎大学・三菱重工業株長崎研究所丸尾町実験場) |
| 第2回 「内部熱交換型蒸留塔 (HIDiC)」 | 2004年1月20日 (サンプラザ市原・丸善石油化学株北工場) |
| 第3回 「バイオプロセスにおける生産と精製・・・醸造酢と医薬品」 | 2006年7月7日 (博物館「酢の里」・ファイザー株名古屋工場) |

○ その他

化学工学会秋季大会シンポジウム企画

- 第10回アジア太平洋化学工学会議 (APCChE) プログラム企画
協賛・共催行事多数

Schedule

平成18年度活動計画

	部会・分科会行事
3月	第71年会 (3/28~30; 東京工業大学), 分離プロセス部会総会
4月	
5月	
6月	
7月	第3回講演及び見学会 (7/7; 博物館「酢の里」・ファイザー株名古屋工場)
8月	
9月	第38回秋季大会 (9/16~18; 福岡大学), 分離プロセスシンポジウム・各分科会シンポジウム (次ページをご覧ください)
10月	第2回分離プロセス最新技術講座 (予定) 第2回ヨーロッパ濾過分離会議 [固液] (10/12, 13; フランス・コンピエーニュ)
11月	
12月	
1月	
2月	FILTECH 2007 [固液] (2/27~3/1; ドイツ・ウイスバーデン)

協賛・共催行事

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 6月23-24日 | 初心者のための吸着技術講習会 (分離技術会) (日本大学理工学部) |
| 7月31日 | 第12回 関西地区分離技術見学討論会 (住友精化株式会社 姫路工場) |
| 11月5-8日 | 第8回超臨界流体国際シンポジウム (国立京都国際会館) |

化学工学会第 38 回秋季大会 分離プロセス部会関連のシンポジウム

○ 分離プロセス部会シンポジウム (G 会場 18 日)

○ 粒子・流体系フロンティア分離技術の展開 (G 会場 16-17 日)

展望講演 「粒子の膜透過機構の解明と膜を用いた粒子分級」 東大院工 中尾 真一 氏

「難ろ過性物質への分離板型遠心分離機の応用」 アルファ・ラバル 青木 裕 氏

○ 吸着・イオン交換が支える環境・エネルギー技術 (H 会場 16-17 日)

展望講演 「環境汚染物質(フッ素、アンチモン等)除去用吸着剤の現状と材料設計戦略」 北九市大国際環境工 上江洲 一也 氏

○ 膜分離・吸着用多孔質材料の最近の研究開発動向 (H 会場 17-18 日)

展望講演 「多孔性金属錯体の吸着材および分離材への適用に関する展望」 大阪ガス 関 建司 氏

「拡散速度・活性点分布から見たゼオライト触媒・膜の特性制御の可能性」 北大工 増田 隆夫 氏

○ グリーンテクノロジーとしての膜分離 (I 会場 16 日)

展望講演 「低環境負荷プロセスを目指したメンブレンリアクターの開発」 産総研 濱川 聡 氏

「ナノ多孔性分離膜の開発と液相系分離への応用」 広大工 都留 稔了 氏

○ 蒸留塔およびプロセスの省エネルギー化に向けて (I 会場 17 日)

展望講演 「ヨーロッパにおける HDiC 研究の現状」 東工大理工 小菅 人慈 氏

お知らせ

委員会活動より

アクションプランに沿って、より充実した活動が行えるよう、部会内委員会組織を下記のように再編しました。また、各委員会では運営にご協力いただける委員を広く募集しております。積極的なご参加をお待ちしています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

企画委員会 (既設) : 部会活動計画の策定や各種企画の調整を行い、部会の運営を支援する。

産学連携・会員サービス委員会 (新設) : 産学連携の強化や会員サービスの向上をはかるための活動、事業を推進する。

教育委員会 (教科書 WG 等より改編) : 教科書やカリキュラムの策定に関わる提言や技術・学术交流の支援を行う。

広報委員会 (ホームページ・ニュースレター委員会より改編) : ホームページやニュースレター等を通して情報の発信を行う。

産学連携・会員サービスの強化に向けた取り組みについて

産学連携の推進や会員サービスの向上の一環として、産学テーマのマッチング、技術相談、共同研究等への展開へのサポートといった取り組みをはじめとしています。会員の皆様には、これにともなうアンケート調査にご協力いただきましてありがとうございました。集計結果は産学連携・会員サービス委員会を中心とする今後の活動に反映させていただきますとともに、教育・研究機関におけるシーズや民間企業等におけるニーズの情報など、順次公開を進めてゆきます。

分離プロセス部会では、会員の皆様の声を募っております。

部会に関すること、ホームページやニュースレターに関することなど、自由なご意見をお寄せください。

宛先: 化学工学会分離プロセス部会広報委員会 望月和博

〒263-0022 千葉県稲毛区弥生町 1-8 東京大学生産技術研究所 FAX: 043-251-1231 e-mail: mochi@iis.u-tokyo.ac.jp

分離プロセス部会ホームページ

<http://envchem.iis.u-tokyo.ac.jp/separation/>

入会案内

化学工学会分離プロセス部会では、皆様の入会をお待ちしています。

化学工学会の個人会員 (正会員、学生会員、永年会員、名誉会員) はオンラインで申込が可能です。化学工学会ホームページ (<http://www.scej.org/>) の部会入会のページからお手続き下さい。

法人、化学工学会非会員は分離プロセス部会事務局までお問い合わせ下さい。

化学工学会分離プロセス部会

■ 事務局

大阪府立大学 大学院 工学研究科

吉田研究室内

〒599-8531 大阪府堺市学園町 1-1

TEL&FAX: 072-254-9301

Email: coe-kido@chemeng.osakafu-u.ac.jp

■ 広報委員会

委員長 望月 和博 (東京大学)

委員 辻 智也 (日本大学)

野村 幹弘 (芝浦工業大学)

向井 康人 (名古屋大学)